

曲リスト

No	曲名	作詞作曲
1	からっ風のブルース	作詞：岡本 おさみ / 作曲：吉田 拓郎
2	<u>伽草子</u>	作詞：白石 ありす / 作曲：吉田 拓郎
3	蒼い夏	作詞：岡本 おさみ / 作曲：吉田 拓郎
4	風邪	作詞・作曲：吉田 拓郎
5	長い雨の後に	作詞・作曲：吉田 拓郎
6	春の風が吹いていたら	作詞・作曲：伊庭 啓子
7	暑中見舞い	作詞：岡本 おさみ / 作曲：吉田 拓郎
8	ビートルズが教えてくれた	作詞：岡本 おさみ / 作曲：吉田 拓郎
9	制服	作詞：岡本 おさみ / 作曲：吉田 拓郎
10	話してはいけない	作詞：岡本 おさみ / 作曲：吉田 拓郎
11	夕立ち	作詞：岡本 おさみ / 作曲：吉田 拓郎
12	新しい朝	作詞・作曲：吉田 拓郎

データ

- ・1973年6月1日リリース。当時27歳。
- ・例の金沢事件で発売が危ぶまれたが無事発売。アルバム発売の翌日に釈放されている。
- ・2006年4月5日 拓郎誕生日に紙ジャケ仕様で復刻。
- ・#5「長い雨の後に」は珍しく長いモノログ。
- ・#6「春の風が吹いていたら」は、四角佳子、つまり当時の妻とデュエットしている。アルバムのクレジットでは、「よしだけいこ」となっている。
- ・このアルバムの発売の翌々日かつ釈放の翌日6月3日、早くも神田共立講堂のステージに立っていると記録にあるが、このとき#6を夫人と歌っている。
- ・#6「春の風が吹いていたら」は、作詞作曲伊庭啓子である。拓郎がオリジナルアルバムで作詞作曲とも他人の曲をカバーでもなく歌うことは珍しい。この他には、作詞作曲中島みゆき「永遠の嘘をついてくれ」ぐらいか。
- ・伊庭啓子は広島在住（2007年現在）、四角佳子の広島でのコンサートを来訪したことが四角佳子のブログに書かれていた。そのコンサートでは#6「春の風が吹いていたら」も、歌われた。
- ・シングルカットはアルバムタイトルの「伽草子」。このアルバムの前後に「おきざりにした悲しみは」「金曜日の朝」という名曲が発表されているが、オリジナルアルバムには未収録である。6ヵ月後に「LIVE'73」が発表されていることを考えても、この時期は多作であったことが窺える。
- ・春～夏にかけての季節を描いた曲が#2・3・6・7・9と多い。ジャケット（田村仁撮影）もこの季節を表しているようで淡い色彩である。
- ・#1「それからあれも」#2「君の絵本を閉じてしまおう」#3「きみは夏みかん剥きながら早

く子供が欲しいなわざと言ってため息ひとつ」#7「愛するところは君のアパートですか」
#9「親に語れない秘密のひとつやふたつできてしまって」#10「抱きしめたことに理由な
どないんだ」#11「描いてきたきみの裸破いて残らずたいらげたいんだ」など、性的な意
味を匂わす詞が、他のアルバムに比べてもたいへん多い。金沢事件前に作成、拘留中に発
売ということを考えると過激な内容であったかもしれない。

- ・柳田ヒロ (Piano&Organ) チト河内 (Drums&Percussion) 矢島健 (E.Guitar&Ac.Guitar) 後
藤次利 (Bass) 田口清 (Ac.Guitar)
- ・アレンジは吉田拓郎・柳田ヒロ・村岡健で誰がどの曲を手がけたのかは不明。

レビュー

- ・お名前が「
」は、ずっと昔の HP にコメント頂いたものです。
- ・かみさんとまだ恋人同士だったころ、「何か歌って」とささやかれて、そーゆーつきあい
かたをしたことがなかった僕はだいにテレながら、自分なりに思いをこめて選曲し、赤く
なりながら歌ったのが伽草子。でも別に拓郎ファンじゃなかった彼女は「何の歌だろう」
みたいな反応で、こいつめーと思った。拓郎にしてはめずらしく、ほわっとしたやさしい
感じのアルバムだと思う。「スプーンもお皿も、耳をすましてさ・・・」なんてくだり、絶
品だよ。
- ・中学時代、友人がこのアルバムを学校に持ってきて見せてくれた赤い歌詞カードがとても
印象的でした。
- ・中学の時、蒼い夏を必死で練習してマスターした思い出が残っています。一番最初に見た
コンサートが、この時だったんですよ。
- ・蒼い夏がとても印象的で今も心に残ってます。
- ・なんか、こう、聴いててほんのりとした感じがいいですね。これは中1の頃よく聴いてい
ました。テスト週間に。思い出の一枚です。
- ・主人とまだ付き合っていた頃奄美諸島に旅に出た時のこと・・・。しょっちゅう喧嘩ばか
りしていて、頭にきた私が宿を飛び出し海岸で泣いていた夜、「雲が飛ばされて月がぼっ
かり独り言・・・」「・・・も少し幸せに、幸せになろうよ」と唄いながら迎えに来てく
れた彼。その通り今は幸せになりました！
- ・沖縄の島でバイトしていた頃、泊まった島に拓郎のこのLPだけが合った。泡盛を飲みな
がら、このLPばかり、聞いていた。蒼い夏、夕立、風邪などを聞くとあの海を思い出
す。忘れられない。ちょうどその頃、セブンスターズショーをテレビでしていたらしく、
(3月、TBSだと思う) 見れなくて悔しかった。
- ・青春の思い出です。遠くに住んでいた女の子に会いに泊まりがけで出かけて、夜の海岸で
聴いていました。
- ・このアルバム全体に感じる「淡さ」が好きです。淡々と日常を綴ったような詩やちょっと
頼りない演奏(笑)も。激しさは色あせても、優しさだけ抱きしめてという心境(多分、
拓郎はそんな心境に戸惑っていたのでは?)が垣間見えるような気がします。 - redu06
(2009年01月30日10時39分49秒)